

第3章 住民意識調査の結果

1 調査の実施概要

本計画の策定にあたり、令和7年度に住民意識調査（以下、本調査という）を実施しました。

（1）調査対象者と抽出方法

16歳以上で本村に在住する方の中から、令和7年6月1日現在の住民基本台帳による性別・年代別人口構成比に従って、合計が800人となるよう、無作為に抽出しました。

（2）調査期間

令和7年7月1日～令和7年7月31日

（3）調査方法

郵送配布～郵送回収もしくはネット回答

（4）有効回収率

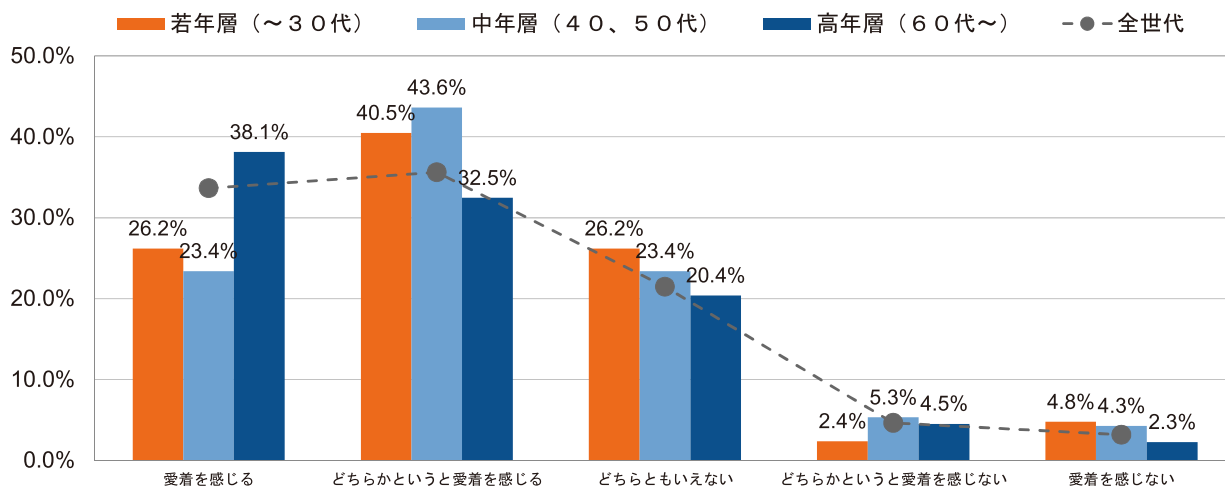
調査票配布数：800件 有効回収数：410件 有効回収率：51.4%

2 調査結果からの抜粋

（1）本村への愛着の有無（単数回答）

愛着傾向はどの世代も比較的高いものの、若年層より高齢者の方が山添村に愛着を感じていることがわかります。

Q10)あなたは、山添村に愛着（親しみ）を感じますか

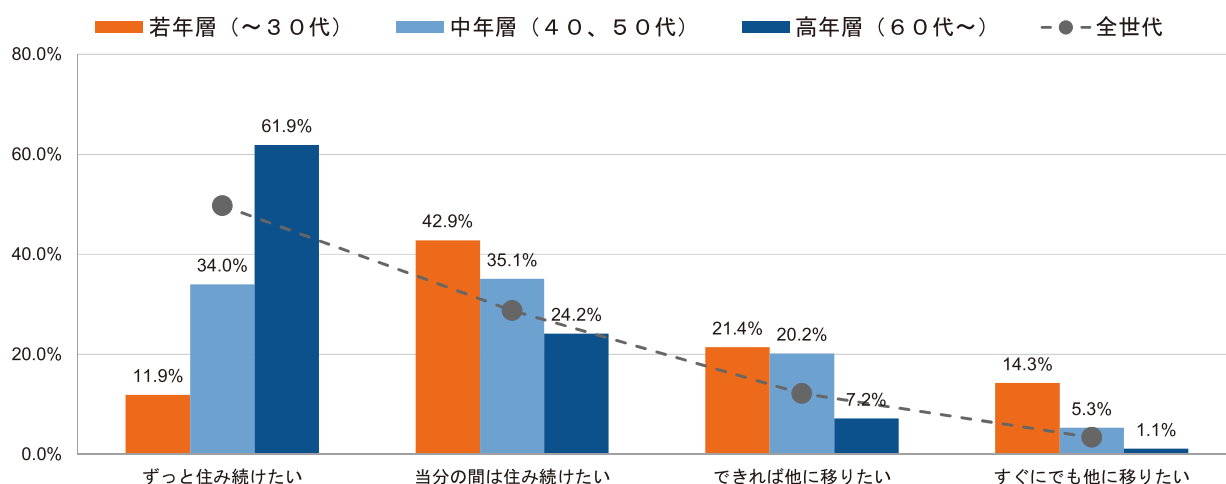


(2) 本村への定住意向（単数回答）

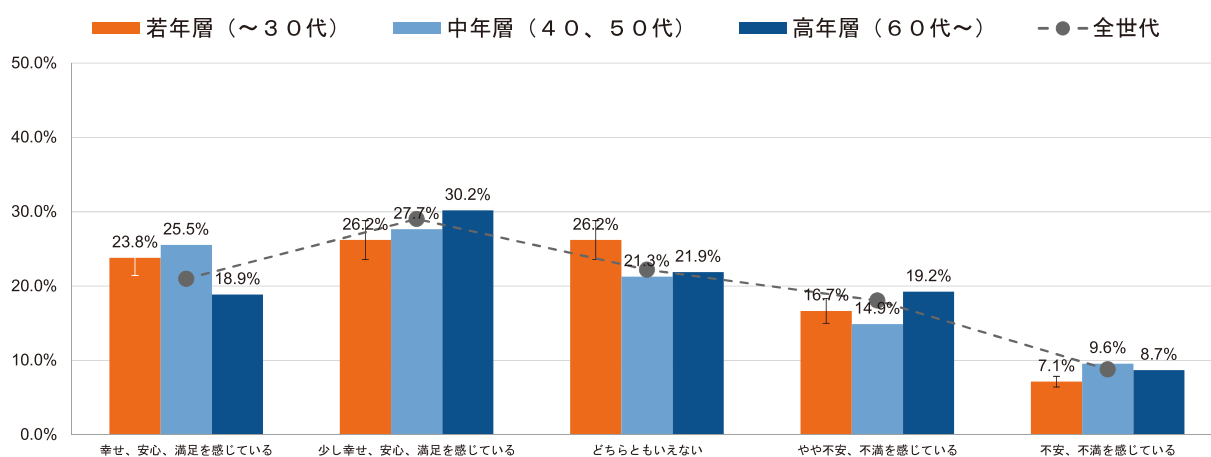
定住意向もどの世代でも高いものの、若年層より高齢者層の方が明らかに高い傾向があり、若年層・中年層の2割は「できれば他に移りたい」と答えています。

暮らしの満足度については、どの世代も約3割が不安や不満を感じていることも示されています。これは、愛着度や居住意向の高さと比較すると、改善の余地があることを示唆しています。

Q11)あなたは今後も山添村に住み続けたいと思いますか



Q12)あなたは、今の暮らしをどう感じていますか



(3) 近年の取組への評価（複数回答）

村主導で実施してきた施策の中には評価をいただいたものもありましたが、良くなったという事業は少なく改善の余地があります。

Q15)あなたは、現在の山添村について、おおむね10年前に比べてどうなったと思いますか。

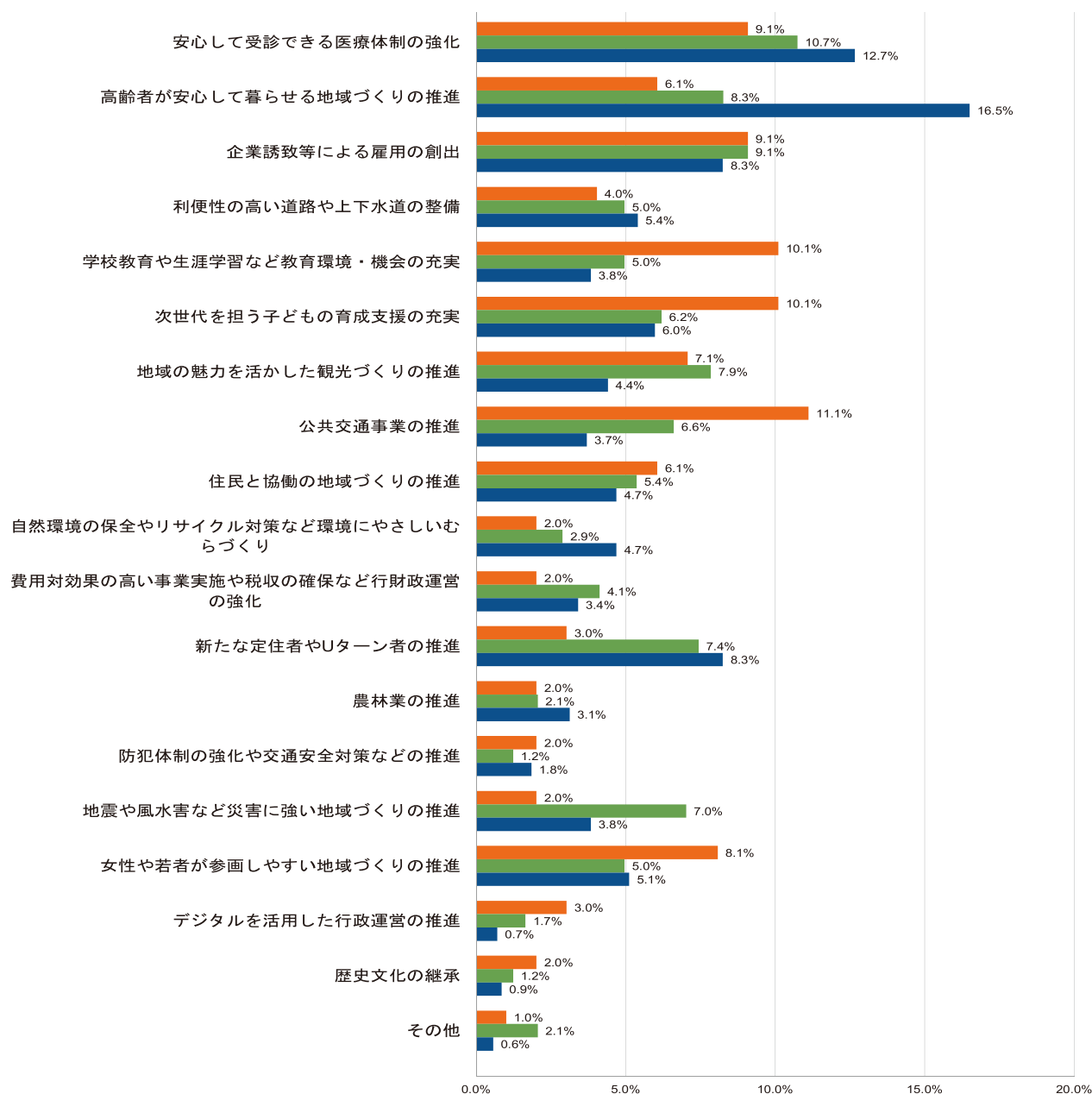
順位	分野	良くなった + やや良くなった	良くなった (%)	やや良くなった (%)
1	コミュニティバス	65.9%	19.8%	46.1%
2	村の情報入手方法	54.1%	10.7%	43.4%
3	上下水道	52.9%	29.8%	23.2%
4	行政サービス・デジタル化	49.0%	8.5%	40.5%
5	福祉	48.8%	12.7%	36.1%
6	空き家の活用	36.3%	2.4%	33.9%
7	救急・消防体制	33.4%	11.5%	22.0%
8	道路の整備	30.7%	3.2%	27.6%
9	こどもの教育	30.7%	7.1%	23.7%
10	医療	30.5%	9.3%	21.2%
11	健康づくり活動	27.3%	4.6%	22.7%
12	交通安全対策	25.9%	5.9%	20.0%
13	防犯対策	25.4%	5.1%	20.2%
14	防災対策	25.1%	3.2%	22.0%
15	交流・ふれあいの機会	22.7%	2.2%	20.5%
16	文化行事・文化財	22.7%	2.2%	20.5%
17	住民参加による村づくり	21.2%	1.7%	19.5%
18	出産・育児	20.7%	4.9%	15.9%
19	公民館・文化施設	20.2%	4.6%	15.6%
20	自分らしく生きる	19.8%	3.9%	15.9%
21	開かれた村政	19.3%	1.2%	18.0%
22	大字活動への支援	18.8%	2.7%	16.1%
23	自然環境	16.8%	5.4%	11.5%
24	行財政運営	13.7%	0.7%	12.9%
25	スポーツ	12.7%	2.2%	10.5%
26	少子高齢化対策	9.8%	1.0%	8.8%
27	産業の活気	7.3%	0.7%	6.6%
28	農林業	5.6%	1.0%	4.6%

(4) 施策の優先順位

若年層では「学校教育や生涯学習など教育環境・機会の充実」「次世代を担う子どもの育成支援の充実」「公共交通事業の推進」「女性や若者が参画しやすい地域づくりの推進」が高く、高年層については「高齢者が安心して暮らせる地域づくりの推進」が高い傾向がありました。中年層、高年層ともに「新たな定住者やUターン者の推進」が高く「安心して受診できる医療体制の強化」にいたっては全世代で高い傾向がありました。

Q18.Q17で選択したキーワードを進めるために村が優先的に取り組むべき事項（3つまで）

■ 若年層（～30代） ■ 中年層（40代、50代） ■ 高齢層（60代～）



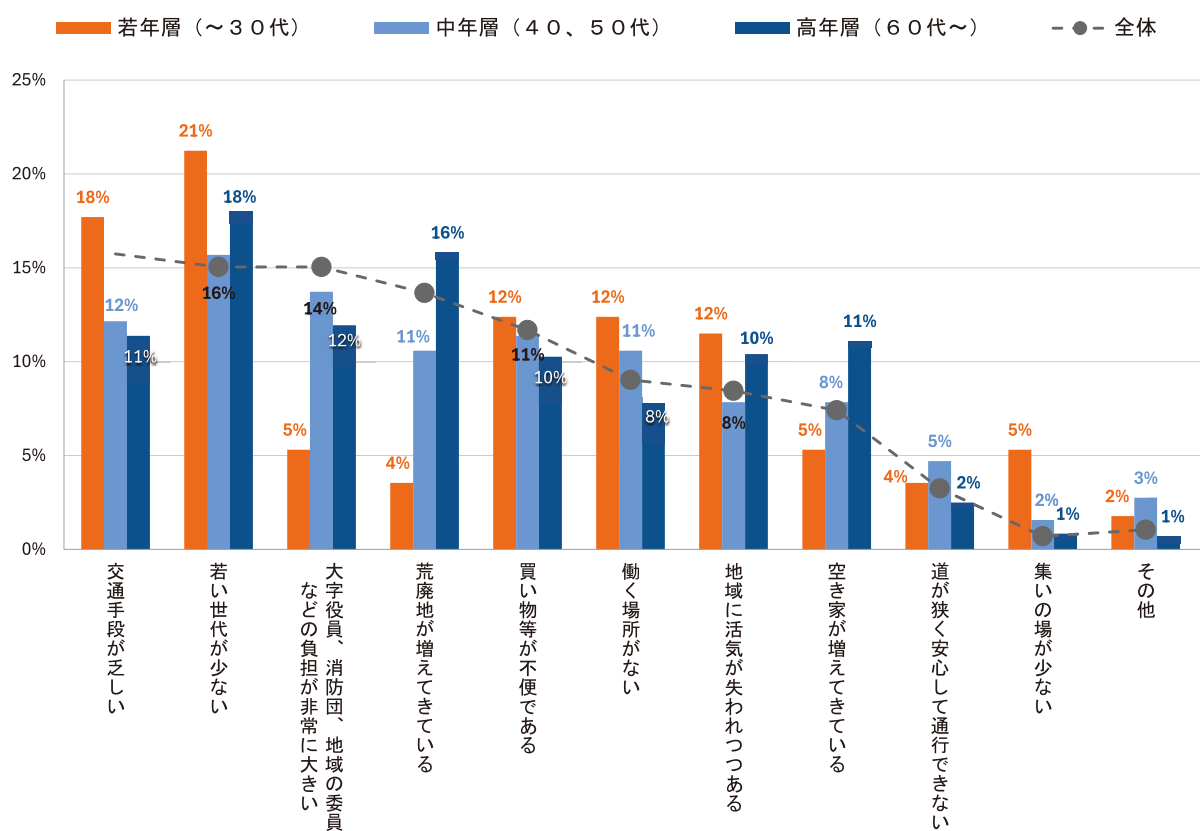
※小数点1桁の表示にしているため、全て加算して100%に満たない系列もある。

(5) 本村の将来像（最も考えに近いものについて単数回答）

「交通手段が乏しい」「若い世代が少ない」については全世代で高く、「荒廃地が増えている」「空き家が増えている」高齢層で高い傾向にありました。

「大字役員、消防団、地域の委員などの負担が非常に大きい」は中高年で高く、「買い物などが不便である」「働く場所がない」「地域に活気が失われつつある」は若年層で高い傾向にありました。

Q16.あなたが「山添村のここを変えていきたい」と思っている点（3つまで）





第2部

基本構想

(写真掲載予定)

第1章 基本理念(ミッション)と将来像(ビジョン)、行動指針(バリュー)

1 基本理念 (ミッション)

「ミッション」については、「企業」の場合、社会において果たすべき使命や任務を定める必要がありますが、「地方自治体」の場合、地方自治法で「住民の福祉の向上」（地方自治法第1条の2）と定められています。

山添村のむらづくりは「誰のために」行うかということについては、一人ひとりの「村民」の幸せのために行うということです。これは疑いようのない理念、価値観であると考えています。

先行き不透明な今の時代において、むらづくりを進めていく上でさまざまな課題が出てきます。こうしたときの課題対応の「判断基準」は、いつも「住民」の幸せにとってどうかということです。そこで、基本理念（ミッション）を「誰もが自分らしい幸せを実現できる社会を共創する」とします。

基本理念（ミッション）

「誰もが自分らしい幸せを実現できる社会を共創する」

私たち一人ひとりが日々の暮らしの中に幸せを実感すること、それがむらづくりの目標です。むらづくりを考える上での基本は、私たちが幸せに山添で生き、暮らし続けていこう、住み続けていこうとすることです。

そのためには、村民と議会・行政が、「自分らしく生きる、一人ひとりが幸せに生きることができる社会」をともに考え、創っていくことが大切です。

2 めざす将来像 (ビジョン)

次の将来像の実現に向けて取り組んでいきます。

将来像（ビジョン）

「元気で、夢や生き甲斐を持て、安心して暮らせる村づくり」

村民が健康で安全安心に暮らすことができ、村民一人ひとりが互いを尊重し、寄り添い、支え合いながら、「ぬくもり」のあるむらづくりを行い、将来を担う子どもたちが

のびのびと成長することができる村をめざします。

村民一人ひとりが夢や生き甲斐を持ち、その実現に向けて挑戦し、地域の資源を活かしながら、新しい価値をみんなで共創する活気ある村をめざします。

先人たちが築いてきた歴史文化を誇りに思い、豊かな自然を大切にしながら、みんなが「ずっと、ここに住み続けたい」と思える村を次の世代に引き継いでいきます。

3 行動指針（バリュー）

むらづくりの出発点は、いつも「村民」です。そして、「村民」が「議会」と「行政」とともに考え、創っていくことが大事になってきます。山添村のむらづくりは、「村民」と「議会」・「行政」が、「対話」を繰り返し、共に考え、手を携えて行うものと考えています。こうしたことからむらづくりのための行動指針（バリュー）を新たに設定することとし、「村民起点、村民共創」とします。

行動指針（バリュー）

「村民起点、村民共創」

○主観指標【住民アンケートでの満足度（単位％）を向上させること】

指標名	現状値 (R7 年度)
あなたは山添村に愛着（親しみ）を感じますか	69.3
あなたは今後も山添村に住み続けたいですか	78.5
あなたは今の暮らしをどう感じていますか	—

※現状値については、全世代の割合となっています。

4 むらづくりの方向性（基本目標）

むらづくりの方向性を、次のとおり定めます。

■安心して快適に暮らせるむらづくり

【防災・防犯・基盤インフラ整備】

・村民の生命と財産を守るため、災害への備えを充実させるとともに、犯罪の防止に

- 取り組むことで、安心安全な地域社会の構築に努めます。
- ・村民の暮らしを支える基盤となるインフラを整備します。

■ 自然豊かで美しい環境を保てるむらづくり

【自然・環境】

- ・豊かな自然環境を守るため、環境にやさしい取り組みを推進することで、自然環境の保全に努めます。

■ 学ぶ喜びを感じることができるむらづくり

【子育て・教育・文化】

- ・誰もが自分らしく生きることができる共生社会をめざして、子どもから大人までが学び続けることができる環境を整えます。

■ 心身ともに健やかに暮らせるむらづくり

【健康・医療・福祉】

- ・元気で、夢や生き甲斐を持ち、生涯を通じて健康で暮らせるよう、医療体制を整備します。

■ 活気と賑わいのあるむらづくり

【産業・雇用・交流】

- ・地域の活気と賑わいを生み出すため、関係人口や地域活性化の取り組みを推進し、地域で経済が循環する持続可能な社会をめざします。

■ 健全で持続可能な行政運営ができるむらづくり

【行財政・変革】

- ・村民目線で、村民の幸せを実現し続けるため、選択と集中による効率的な行政経営に努めます。

■ ひとりひとりが活躍できるむらづくり

【地域再デザイン】

- ・住民自治を推進し、村民一人ひとりがむらづくりに「自分ごと」として参画できる仕組みを構築します。そのために、タウンミーティングやアナログ、デジタル両面でのアンケート等を通じて課題や方策を共有し、住民協働への共通理解を醸成していきます。
- ・村民が地域に愛着を持ち続け、関係人口を創出するため、地域の魅力を発信する取り組みを行います。

5 計画策定の視点

本計画の策定にあたり、次の3つを基本的作成の視点とします。

①多世代の住民の声を聞く

- ・住民、職員が互いに思い（危機感、希望、共感）を共有し、その思いを反映したみんなで共創する計画をめざします。また、総花的な取り組みではなく、優先順位の高い課題に取り組めるよう実行性のある計画とします。
- ・策定にあたっては、声を拾いにくい将来の村を担う世代（10～40代）の意見を聞く機会を積極的に設け、若い世代が夢を持てる村の将来像を描きます。
- ・高齢化の進展により地域住民による支え合いの仕組みづくりが大切であることから高齢者との対話を通じて、安心して暮らし続けられる村のあるべき姿を描きます。

②根拠に基づき政策を立案する

- ・人口動態、社会動向、財政状況などのデータ分析から将来（村のあるべき姿）を見通した持続可能な村づくりのために必要な政策を考えることとします。

③強くてコンパクトな行政組織（人づくり・組織づくり・仕組みづくり）をつくる。

□人づくり

- ・計画を着実に実行するためには、その計画を実行できる職員が必要不可欠です。また社会のデジタル化が急速に進むなか、行政においてデジタル人材の確保と育成も急務となっています。そのため強くてコンパクトな行政組織を持続可能なものとするためにも人材の確保と育成に関する取り組みを行うこととします。

□組織づくり

- ・人口減少に伴う労働人口の減少により経営資源である「ヒト・モノ・カネ」が縮小することにより、公共サービスの維持が困難となってきました。その対応として、デジタル技術を活用し、省人化、業務の効率化を行う必要があります。しかしながら、従前の組織はデジタルを前提とした行政経営ができる組織となっていないため、デジタル社会に対応した行政経営ができる組織への変革を行うこととします。

□仕組みづくり

- ・少子高齢化に伴う人口減少により村の経営資源（ヒト・モノ・カネ）が縮小していく中で、利用者起点で行財政のあり方を見直し、デジタル技術も積極的に活用して効率的な行政運営を着実に行うことで持続可能な村をめざすこととします。

第2章 政策の体系

むらづくりの方向性 (基本目標)	政策区分 (一般的な政策項目)	施策区分 (事業の推進方向)
《防災・防犯・基盤インフラ整備》 ～安心して快適に暮らせる むらづくり～	◎防災 ◎防犯 ◎消防 ◎公共施設 ◎公共交通 ◎公共道路 ◎上下水道	◆有事に備える防災対策 ◆身近な防犯対策 ◆消防の効率的な組織構成の検討 ◆公共施設の再整備、再配置 ◆交通手段の確保、充実 ◆暮らしを支える道路整備 ◆上下水道等の整備
《自然・環境》 ～自然豊かで 美しい環境を保てる むらづくり～	◎環境保全	◆自然や環境の保全 ◆ごみの減量化、資源化 ◆適正な生活排水の処理 ◆地域全体での環境施策の推進
《子育て・教育・文化》 ～学ぶ喜びを 感じることができる むらづくり～	◎子育て ◎学校教育 ◎生涯学習 ◎生涯スポーツ ◎人権 ◎歴史・文化	◆こども園を拠点とした子育て支援 ◆心身ともにたくましい生きる力を持った 児童生徒の育成 ◆地域とともにある学校づくり ◆誰もが気軽に学び活動できる機会の創出 ◆地域の歴史文化遺産の継承と環境づくり
《健康・医療・福祉》 ～心身ともに健やかに暮らせる むらづくり～	◎保健 ◎医療 ◎福祉	◆健康の保持、増進 ◆持続可能な医療体制の構築 ◆地域包括ケア体制の構築
《産業・雇用・交流》 ～活気と賑わいのある むらづくり～	◎農林業 ◎商工業 ◎移住定住 ◎地域プロモーション	◆地域産業の振興による地域経営の活性化 ◆地域資源を生かした移住定住施策の推進 ◆魅力的なむらづくりと関係人口の創出
《行財政・変革》 ～健全で持続的な 行政運営ができる むらづくり～	◎財政 ◎人事 ◎業務改善 ◎デジタル変革 ◎公民連携 ◎広域連携	◆健全な財政運営の維持 ◆村職員の人材育成と確保 ◆役場の業務や体制の再構築 ◆財源の確保 ◆情報、システムの強化 ◆民間スキルや資源の活用 ◆他の自治体との協働取組
《地域再デザイン》 ～ひとりひとりが活躍できる むらづくり～	◎住民協働、共創	◆多様性が尊重される人に優しい共生社会 の推進 ◆住民と行政との対話による地域課題の解決



第3部

前期基本計画

(令和8年度▶令和11年度)

(写真等掲載予定)

第1章 むらづくりの分野

第1節 安心して快適に暮らせるむらづくり

【あるべき姿（4年後のゴール）】

「安心して快適に暮らせるむらづくり」を実現するため、生活の安全確保と利便性の向上を重点的に進めます。

まず、村民の生命と財産を守るため、防災体制を強化し、災害などの危機に強い地域社会を構築します。これに加え、防犯対策を充実させて犯罪のない村をめざすとともに、消防体制の見直しなどにより、火災から人命が失われる事態を防ぎます。これらの施策を通じて、村民が日々を安全に送れる環境を構築します。

また、快適な生活基盤として、公共施設・公共交通・公共道路の維持・整備を進め、すべての村民が利用しやすい利便性の高い環境を整えます。また、生活の根幹である上下水道については、整備と管理を強化し、安全で美味しい飲み水の確保と、豊かな水環境の保全を実現します。これらの施策により、誰もが心身ともに安心して快適に暮らせるむらづくりを推進します。

○主観指標【住民アンケートでの満足度（単位％）を向上させること】

指標名	現状値 (R7 年度)
防災対策が充実している	30.3
救急・消防体制が充実している	40.5
防犯対策が充実している	34.3
コミュニティバスなど交通手段が充実している	70.2
交通安全対策が充実している	26.5
道路が整備されている	23.5
上下水道が適切に維持管理されている	62.4

○客観指標

指標名	現状値 (R7 年度)	目標値 (R10 年度)
むらづくりの分野		
地域別の防災訓練への延べ参加者数	225	527
むらづくりの分野 1－1		
防犯カメラの延べ設置件数	36	51
むらづくりの分野 1－2		
公共施設等総合管理計画の改定及び 適切な運用の実施	—	改訂・実施
むらづくりの分野 1－4		
コミュニティバスの年間延べ利用回数 (片道につき 1 回)	23, 000	23, 300
むらづくりの分野 1－5		
村が直接維持管理作業を実施する路線数	4	17
むらづくりの分野 1－6		
村道の安全管理（特 1 級・1 級路線の舗装修繕率）	2	50
むらづくりの分野 1－6		
橋梁の長寿命化対策（早急な修繕を要する橋梁数）	3	0
むらづくりの分野 1－6		
主要幹線県道の隣地立木伐採延長（m）	0	2, 400
むらづくりの分野 1－6		
簡易水道管路更新地区数	4	6
むらづくりの分野 1－7		

○現状と課題

- ・ハザードマップの各戸配布や防災無線の更新工事を行うなど、災害時に備えた取り組みを適切に行っている。
- ・ここ数十年大きな災害を経験していないこともあり、行政、住民ともに大災害に即応できる行動が取れるかどうか不確実である。

○取組の方向性

- ・行政側からの提供のみではなく、「地域住民が互いに助け合える」体制を作るため、地域での防災訓練等を実施する。
- ・村単独ではなく近隣自治体との広域的な連携を密にすることや、自衛隊をはじめ国や県の関係機関と平時からつながりを持つことで、有事の際に適切に対応できうる体制を整備する。
- ・物資の補給等において、より多くの民間事業者と強いつながりを持つことで、安定的な災害対応を継続できるようにする。

＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・裏山がくずれるのがこわい。この恐怖感があると不安です。（50代・女性）
- ・災害が起こった時の全村民に行き渡る生活用品・食料品等の備蓄は十分に確保できているのか知りたいです。（70代・男性）
- ・東南海トラフ地震、首都直下地震など、自然災害が近い将来に発生すると言われていますが、田舎が見直されて、移り住む人も出てくるでしょう。（70代・男性）

○具体的な取組

1 防火・防災啓発活動の強化

- ・地域別防災訓練について消防団の分団単位での訓練を継続して実施する。また、今後より現実に即した訓練を継続的に実施していく。

2 他団体および民間企業との連携強化

- ・有事の際の円滑な対応を実現するため、近隣自治体や関係機関等との連携を強化する。また、民間企業との連携により、必要な避難物資の確保を進めていく。

○現状と課題

- ・村内においても窃盗や特殊詐欺などの被害が確認されており、防犯の対策が求められている。
- ・村民の防犯意識の向上と地域の治安を守るため、地域における自主的な防犯活動を促進するとともに、行政と関係機関が連携した啓発活動に取り組む必要がある。

○取組の方向性

- ・地域、企業、行政、警察等の連携により、防犯体制の充実・強化を図る。
- ・地域安全パトロールや青色防犯パトロールの充実により、効果的な監視体制を実現する。
- ・消費生活にかかるトラブル犯罪を防止するため、相談の充実や適切な情報の提供を行う。

＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・防犯カメラもなく、見たことのない車がウロウロしていて怖いです。（20代・男性）
- ・物騒な世の中になってきたので、防犯カメラの設置を増やせないでしょうか？（50代・女性）
- ・防犯カメラを増設してほしい。（70代・男性）

○具体的な取組

1 関係機関との連携

- ・村民の防犯意識を向上させるため、警察等の関係機関や団体と連携した啓発活動を実施する。

2 情報発信の充実

- ・広報や情報配信アプリ等を活用し、犯罪情報を共有することで被害の防止を図る。

3 防犯カメラの増設

- ・各大字に防犯カメラ設置事業補助金の周知を行い、より多くの防犯カメラを設置してもらうことにより、防犯カメラによる犯罪抑止に努める。

○現状と課題

- ・人口減少、少子高齢化が加速する中、団員確保など消防団組織の維持が困難となっている。
- ・人口減少・高齢化が進む中であるが、現在の救急体制を維持したい。

○取組の方向性

- ・消防団組織の見直しを検討する。
- ・村全体として持続可能な防災体制を構築する。
- ・救急体制の維持に努める。

＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・消防等に半強制で入らないといけないのがおかしいという人が一定数いると思う。
（20代男性）
- ・人口減少に対応し、大字役員や消防団などの定数を現状の人口規模に見合った水準へ見直しすべきです。（60代・男性）
- ・大字消防団の協力金が大字によって強制的で高額なので、抜本的な改革と統一を望みます。（70代・男性）

○具体的な取組

1 持続可能な消防防火体制の検討

- ・消防団の自主的な見直しの中、分団や班の課題について調査し、持続可能な地域の消防団体制を検討する。

2 防災・救急体制の充実

- ・他自治体や企業などとの協定による災害時の応援・支援体制を確保する。
- ・県広域消防組合、関係機関等との連携により、救急体制の維持に努める。

○現状と課題

- ・地方公共団体では厳しい財政状況が続く中で、今後、人口減少・高齢化等により公共インフラを含む公共施設等の利用需要が変化していくことが予測される。
- ・公共施設等の運営状況や利用実態並びに劣化の状態を的確に把握し、長期的な視点を持って、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行う必要がある。
- ・公共施設等総合管理計画を策定しているが、多数の公共施設において存続の可否を判断できず、計画自体が形骸化してしまっている。

○取組の方向性

- ・公共施設等の運営と総量の最適化を図るため、村民の理解を得ながら、効率的・効果的な維持管理や適正配置を推進する。
- ・建築の専門家や外部有識者を加えて、今後その施設が活用できうるのか分析を行う。

＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・「全てを維持する」のではなく、集落単位での再編や拠点化を模索することが重要（40代・男性）
- ・使い道の少ない公共施設の取り壊しをすること。（60代・男性）
- ・人口の減少で財政難を心配しています。公共の建物の使用できていないところを貸し出すか、売却する方法もありそうです。（70代・女性）

○具体的な取組

1 公共施設マネジメント委員会の発足及び専門技術者による施設の調査

- ・専門家を交えた公共施設マネジメント委員会を開催し、施設の方向性を審議する。また必要に応じて、専門家による施設調査を実施し、施設ごとに存続が可能か否かを判断する。

2 公共施設等総合管理計画の見直し

- ・上記の委員会や調査と合わせて、節目を迎える公共施設等総合管理計画を見直し広域的・長期的な視点での更新、統廃合、維持管理等の方針を定め、公共施設を計画的に維持管理、適正配置することにより、財政負担の軽減・平準化を図る。

3 未利用地等の有効利活用の推進

- ・未利用財産について、利活用方針の明確化や売却等に必要な条件整備を図り、売却、貸付けなどを積極的に進める。

○現状と課題

- ・コミュニティバスの運行や福祉タクシーへの運行補助を行っており、多くの住民の利用がある。

○取組の方向性

- ・既存のコミュニティバスの路線と便数を確保するとともに、村内移動手段の再検討を進める。
- ・交通安全協会との連携による定期的な交通安全啓発の実施と、ガードレール、カーブミラー等の安全施設の設置推進、横断歩道設置の呼びかけといった道路安全対策を実施する。

＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・親の今後を考えると近くに買い物ができる場所や交通の便がいいところに住まわせてあげたいと思う。（20代・女性）
- ・山添村のような過疎地こそ自動運転バスなどの次世代の交通技術の社会実装の最適地。実証実験を積極的に進めていただきたい。（40代・男性）
- ・「奈良の子が、奈良の学校に通うのが1番難しいこの状況」をなんとかしていただければと思います。（40代・女性）
- ・奈良市や伊賀市への送迎バスは画期的で定住にプラスになると思う。（60代・男性）
- ・数年後、自分の移動手段はどうなっていくのか。今は自家用自動車で買物、通院はしていますが事故発生率の高い名阪国道の利用も不安の1つ。（60代・女性）
- ・奈良、上野、名張方面への村営バスが整備されましたが、私が住んでいる地域では恩恵を、実感できません（70代・男性）
- ・車なしでは生活できない。道が狭すぎる。（70代・女性）
- ・私は土日に奈良市へ行くことが多い。子や孫に会うためである。今はそれが楽しみである。継続してほしい。（70代・男性）

○具体的な取組

1 公共交通の確保

- ・コミュニティバスの路線及び便数を確立するとともに、村内移動手段の再検討（個別移動等）を行う。また、今後も利用者の声に耳を傾け、より利用しやすく、安全で効率的な公共交通をめざす。

○現状と課題

- ・草刈りなど自治会の協力を得て実施してきたが、高齢化・人口減少で地域の力が減少し、地域で対応することが難しくなっている。アンケートでも道路の荒廃に対する心配の声が上がっており、対策が急務である。
- ・村内は車がないと生活できない場所であり、道の狭さや道路状況の悪さが住民の不安要素となっている。特に高齢者にとって、車の運転が困難になることは大きな不安要素である。

○取組の方向性

- ・交通安全協会との連携による定期的な交通安全啓発の実施と、ガードレール、カーブミラー、白線、安全周知看板等の安全施設の設置を推進し道路安全対策を実施する。
- ・住民が必要とする道路の選択と、予算の集中を行い、住民の安全確保や生活利便性向上につながる主要生活道路の整備や危険箇所の改善を行う。

＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・カーブミラーを増やして見にくい箇所を今より減らして欲しい。（４０代・男性）
- ・道路上の陥没対策を強化してほしい。（４０代・女性）
- ・竹藪が道に覆い被さるような場面に遭遇する。竹をチップにして肥料として販売する自治体もある。粉碎機の貸し出しをアピールしていただきたい。（４０代・男性）
- ・車が無いと生活出来ない、予算をもっと道路整備に使うべき。（４０代・男性）
- ・道路両脇の雑草や雑木の背が年々高くなり”森化”している。スッキリ刈り上げてきれいな環境づくりをして欲しい。（７０代・男性）

○具体的な取組

1 交通安全対策

- ・村民、関係機関、交通安全協会等の各種団体との連携を強化し、交通事故のない環境づくりを進める。

2 道路安全対策

- ・自動車交通の安全を確保するため、交通安全協会等と連携し、ガードレールやカーブミラー、白線等の安全施設の設置や改修を実施する一方、ドライバーの運転モラルの向上のための安全周知看板等の設置も行い、道路施設と利用者が共に道路安全対策に取り組む。

3 道路環境整備

- ・道路環境整備について優先的に予算を割り当て、雑木払いや隣地の支障木伐採、道路際の草の刈り上げ、防草シートで維持するなどが必要である。

○現状と課題

- ・上水道については、平成28年に村全体を一つの簡易水道として統合した。施設の維持管理については、これまで住民で組織した水道組合に業務を委託してきたが、住民の高齢化等により、組合による維持管理が困難になってきている。
- ・下水道は村内5集落で整備されているが、それらの下水道関連施設は築30年超のものが大半であるため、老朽化が進行している。

○取組の方向性

- ・現在老朽化が進んでいる簡易水道施設の管路や機械設備について、将来的な維持管理コストと効率性を考慮し、施設の統廃合も視野に入れた計画的な整備を進める。
- ・簡易水道の水源は限られているため、適正な管理体制のもとで現状の料金体制を維持し、持続可能で安定した水の供給を行う。
- ・老朽化が進む下水道施設について、コストや効率性を考慮し、各地区に適した在り方をめざす。

＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・井戸水を使っていますが、トラブルで水が止まったりします。その度に親が何人かで修理に行ってます。村にサポートをしてもらいたいです。（20代・男性）
- ・将来水利問題等困ることがないように約束ごとを決めておくべきです。（70代・女性）
- ・上水道工事が始まりました。村でやってくれるのは大変ありがたいです。小さい村ですが、みんなよく頑張っていると思います。（70代・男性）

○具体的な取組

1 施設の維持管理および統廃合

- ・安全で安心な飲料水を供給するため、老朽化した上水道管路の更新工事を実施する。
- ・上水道施設の効率的な運営を行うため、財政面も考慮に入れて統廃合に向けた施設の在り方等の調査、研究を行う。
- ・下水道施設の更新について、浄化槽への転換も含め、地元組合と連携し協議していく。

2 適正な管理体制

- ・令和9年度からの上水道村直営での維持管理に向けスムーズに業務が移行できるようにスケジュールを決定する。その中で、先行して配水池清掃・緩速ろ過砂入替えなど一部作業を村（直営・外部委託）で対応する。
- ・効率的で安全な料金調定・収納システムの構築を早急に行う。

第2節 自然豊かで美しい環境のむらづくり

【あるべき姿（4年後のゴール）】

「自然豊かで美しい環境のむらづくり」の実現に向け、次世代に誇れる美しい環境の保全と創造をめざします。核となるのは、豊かな自然環境を守り、未来へ引き継ぐ環境保全の取り組みです。このため、生物と人が適切に共生する生物多様性のある自然環境の創出に向けた森林整備の実施や、資源の有効活用を徹底し、ごみの軽量化・資源化を積極的に推進することで、適切な分別と資源化率の向上を図ります。また、生活環境の質を維持するため、適正な生活排水の処理インフラの整備・維持を確実に行之、清浄な水環境を守ります。

さらに、これらの取り組みを地域全体での環境施策の推進へと発展させ、単に自然を「守る」だけでなく、その豊かな自然を村の資源として捉え直し、多様な形で「活かす」ことによって、環境と経済が好循環する持続可能なむらづくりを推進します。

○主観指標【住民アンケートでの満足度（単位％）を向上させること】

指標名	現状値 (R7 年度)
自然環境が守られている	19.0

○客観指標

指標名	現状値 (R7 年度)	目標値 (R10 年度)
むらづくりの分野		
農地バンク成約面積 (ha)	2.56	5.56
むらづくりの分野 2-1		
家庭からのごみ排出量 (t)	570	485
むらづくりの分野 2-2		
地球温暖化対策計画の策定及び適切な運用の実施	未策定 未実施	策定 実施
むらづくりの分野 2-4		
混交林整備面積 (ha)	1.92	8
むらづくりの分野 2-4		

○現状と課題

- ・豊かな自然環境と里山の景観を維持・保全するための取り組みや森林の公益的機能を向上させるための森林整備を進めている。
- ・人口減少と高齢化により、里山の保全・整備といった住民主体の環境保全活動の継続が困難になりつつある。
- ・農林業の担い手の高齢化や後継者不足は、農地の荒廃を招き、景観や生態系の維持といった環境保全に深刻な影響を及ぼす恐れがある。

○取組の方向性

- ・豊かな自然を守りつつ、地域コミュニティの活力を維持し、持続可能な形で活動を継承する。
- ・自然環境の保全活動自体を、観光産業、森林整備といった若者が興味を持てる「働く場所」や「収益源」に結びつける方法を検討する。
- ・村の農地資源を活用し、環境に配慮した持続可能な有機農業に取り組む。

<こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）>

- ・耕作放棄地問題にもっと取り組むべき。（40代・女性）
- ・遊休地の有効利用と雇用の創出、村の活気回復に向け、さらなる議論をお願いします。（40代・女性）
- ・農林業にしっかり力を入れていただきたいです。年を重ねても自然と協和しながら、安心・安全に暮らせる事を願っています。（50代・女性）
- ・今ある自然一杯の山添村を残してもらいたい。（60代・女性）
- ・木の伐採をこまめにして、新しい木を植え替える。高齢化を少しでも減らすために、若い人たちが楽しめる場所を作り、山添村の人を育てていく。（60代・女性）
- ・農地の荒廃対策、後継者が少なくなり荒廃が進んで来ています。地域おこしに協力していただける方など募集してはどうか。（70代・女性）
- ・オーガニックビレッジ宣言、目の前の荒れた畑で、オーガニック野菜が作れる。これで収入が有れば、高齢者の楽しみができて、良い事だと思っております。（70代・男性）
- ・米作りでは、食べていけない。田んぼは簡単に作業はできない。（80代・男性）
- ・農地、山林の荒廃がふえているので非常にさびしく思う。何らかの対策が無いか考えてほしい。（80代・男性）

○具体的な取組

1 持続可能な環境保全活動

- ・ 防災、生物多様性機能の向上のため、混交林整備事業を実施する。
- ・ 耕作放棄地の増加を防ぎ、美しい里山の景観と生態系を維持するための取り組みを行う。

2 オーガニックビレッジ取組の推進

- ・ 村の耕作放棄地を活用し、村内外の農業に興味のある事業者や人々にPRして来村を促し、村内で有機農業を始める人に寄り添い学べる仕組みを構築する。

3 農地情報の発信内容強化（農地バンク）

- ・ 耕作を放棄された遊休農地について、土地情報システム（GIS）を活用し、位置や賃借条件のみならず、地質状況に応じた作付け可能作物情報等も追加し、農地を検索されている方の希望に沿う土地のマッチングを推進する。

○現状と課題

- ・現在はごみ処理の効率化を図るため事務組合で処理を行っているが、ごみの量により負担金を支払っているため、財政状況が厳しくなる中で今後より一層のごみの減量化が求められている。また、資源の回収もここ数年減少している。
- ・住民の高齢化などの理由により、地域でのリサイクル活動について、従来の手法を継続していくことが困難となりつつある。

○取組の方向性

- ・ごみ排出量の多くを占める事業系ごみについて、一般廃棄物として廃棄しないよう対応する。
- ・従来のリサイクル手法については、高齢化による作業の負担も考慮し、状況に応じた方策を整理して、効果的な啓発を行っていく。

＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・移住者の方に対して、ゴミの捨てる方法を、コーディネートしてあげる人がいると助かると思う。（70代・女性）

○具体的な取組

1 ごみの減量

- ・ごみ削減対策を実施する。事業系ごみは一般廃棄物と分別するよう対応する。

2 リサイクルの行政収集等

- ・例えば夏場は飲み物や缶、ペットボトルが多くなるため、季節ごとのリサイクルの啓発を強化する。

3 生ごみの堆肥化の推進

- ・食材として活用できる工夫や、ゴミを出す際の水切りの必要性和、生ごみの堆肥化の意義について広報を行う。さらに生ごみ処理機購入補助の広報を強化する。

○現状と課題

- ・山辺環境衛生センター開設から約40年が経過しているなか、老朽化により今後のし尿や汚泥の処理を継続して実施することが困難となってきた。
- ・汲取式トイレ・単独浄化槽などの生活排水は、環境面において適正な処理ができておらず改善が必要である。

○取組の方向性

- ・施設の更新等は財政的に厳しいため、外部処理施設での処理について模索する。
- ・汲取式トイレ、単独浄化槽の情報を把握していないため、まずは情報収集を行い環境改善を目指す。

＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・上下水道は各大字管理であることに疑問を持っている。村運営にしてほしい。（40代・女性）
- ・農業集落排水事業を推し進めてほしい。（60代・男性）
- ・合併浄化槽の清掃に係る金額が高すぎる。（70代・女性）

○具体的な取組

1 し尿処理等の今後の方向性の検討

- ・近隣市町村と汚泥処理事務委託に向けて協議をする。

2 合併浄化槽設置の推進

- ・汲取式トイレ・単独浄化槽の利用者に合併浄化槽設置の働きかけを行う。

○現状と課題

- ・地球温暖化の観点から森林の維持管理が重要となっている中、山林所有者の山離れが深刻になっている。
- ・森林組合が解散したため、森林環境保全は村主体で行っていくことが求められており、県等関係機関と連携した取組体制が必要である。

○取組の方向性

- ・村主体での森林機能の維持手法を検討するとともに、森林整備計画を見直して適切な森林環境の維持を行う。
- ・有害鳥獣駆除事業補助金の見直しや猟友会との連携強化を図り、住民が安心できる森林環境を整備する。

＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・自然環境の保全やリサイクル対策など環境にやさしいむらづくりを切に望む。
（40代・男性）
- ・後継者不足で数年前から茶山の荒廃が目立ってきています。また、森林組合も無くなるなど村の林業が衰退してきて残念です。（60代・女性）
- ・森林等、「緑」は、ほおっておいては良くならない。放置すると森が駄目になってしまうので手入れが必要。害のある動物を何とかしてほしい。（60代・男性）
- ・温暖化も進む中で、水問題・森林問題等考えていく必要があるのではないのでしょうか。
（70代・女性）
- ・村のあちこちに猪、近ごろは鹿がさくを越えて荒らし、熊まで出て来ています。人口が減るとどうなっていくのか不安になっている日々です。（70代・女性）

○具体的な取組

1 温室効果ガス排出削減対策

- ・地球温暖化対策実行計画に基づく施策を推進する。

2 村主体の森林機能維持・整備計画の立て直し（山添村の里山風景を守る森林維持）

- ・山林管理の色分けをするため、令和7年度を皮切りに村を3つのエリアに分け、順次計画的に、村内山林所有者に森林の管理に関する意思を尋ねる意向調査を実施し、現状把握と森林整備方針の立案を実施する。
また、意向調査結果に基づき、人々の暮らしに密接に関わる里山については災害に強く、生物多様性のある森林に向け混交林整備事業（施業放置された人工林（植林され

た針葉樹林)に、土地に強く根を張る広葉樹を混交植樹整備)を推進する。

3 有害鳥獣駆除事業補助金の見直し(猟友会との連携強化)

- ・鉄砲所持者の活動コストへの支援強化や、わな猟者への狩猟補助の拡充など、村猟友会活動維持に向けた支援拡充を検討する。